

港区立港南中学校

第1学年 学年通信 No.24

平成30年10月19日(金)

BA Ambitious.



合唱コンクール取組

合唱コンクール取組期間となり、朝、放課後と練習を重ねています。中学生になり、7か月がたち、クラスの絆も深まった今、それぞれのクラスがどのような歌声を完成させてくれるのか、今から楽しみです。音程や発声も大切ですが、歌詞の意味を考え、気持ちをメロディーに込めて歌う意識をしていけば、おのずと良い合唱になっていますよ。合唱コンクール実行委員会を中心に協力し合い、頑張っていきましょう。



プレ防災訓練を行いました

10月13日土曜日にプレ防災訓練を行いました。1年生は会場全体案内、情報処理掲出訓練、炊き出し訓練、配給訓練に分かれて学びました。今回は港南防災ネットワーク、消防署の方、PTAの方など多くの人たちの力を借りて非常時の対応について学ぶことができましたね。11月11日には総合防災訓練があります。この時には多くの地域の方が参加しての訓練となる予定です。今回学んだことをしっかりと覚えて、当日も自分の役割を果たせるようにしましょう。



弁論 A組

「普通」とは

A組

「降ります。降ります。」

お年寄りの方がバスを降りようとしていた。何度も声を上げているが、混んでいるため、なかなか通れず困っていた。そこで私の隣にいた人が立ち上がり、自ら、助けに行っていた。お年寄りの方もうれしそうに「ありがとう」と言っていた。私は、恥ずかしくて何もできずにいたが、とても勇気のある人だと思った。その人が、障害をもっていることには後から気が付いた。少し話し方に特徴があったり、オドオドしたりした様子から「普通ではない人」なのだと思った。それまで私は体に障害をもっている人を「普通ではない人」に置き換えてしまっていたのだ。しかし、私にはできなかったが、自ら率先してお年寄りの方を助けに行っていたのだ。障害をもっている人たちも同じ人間なのには変わりはない。「普通ではない人」など、いないのだ。そもそも、「普通」とは、いったい何なのだろう。

ある日、買い物をしていたときに、店員さんに物の位置を尋ねた。その店員さんは片腕を失くしていたため、少し動きがぎこちないようにも見えた。腕がないことに気が付いたときは初めて目にしたため、思わず目をつぶってしまった。多くの人が利用するスーパーだったので、たくさんの方が不自由なのではないか、苦勞しているだろうと、勝手に思い込んでいた。でも、その店員さんはていねいに案内してくれ、とても親切に答えてくれた。また、明るく冗談も入れながら説明をし、大きな声で笑っていた。その時、私には自分の力で仕事ができることに喜びを感じ、自分の仕事にやりがいを感じているように見えた。私の中の「普通」では、2つの腕があるが、その店員さんは違うので、かわいそうだと思っている本心があった。でも、その店員さんにとっての「普通」とは腕が一つであり、私が恵まれているだけなのだと知った。「かわいそう」だと思っていたが、元気に楽しく過ごしていて、とても立派な人だと知り、心が動かされた。

私は好きな言葉がある。それは金子みすゞさんの「私と小鳥とすずと」の詩の中にある「みんな違ってみんないい」という言葉だ。この言葉は、みんな良い所もあり、苦手な所もある、1人1人普通は違っていい、違って当たり前なのだと気づかせてくれた、とても素晴らしい言葉だと思った。私は小学校のころ、音楽クラブに所属していた。そのチームはみんな、1人1人の個性をもっていた。みんなを引っ張ってくれるリーダー、控えめな人、自信をもっている人、もっていない人など様々な人がいた。このように、色々な人が集まってこそ、ひとつの演奏が素晴らしい作品になると思う。互いに認め合って支え合っていくことが大切だと学んだ。

人々にとって、自分のもっている「普通」は誰もが違う考え方をするのだろう。自分のもっている「普通」の世界観から周りの人を見るのではなく、1人1人の「普通」から物事をとらえられるようになることが大切だと思う。